



分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		産業廃棄物の処理については、自社営業の中間処理場にて処理を実施しており、適切に処理を進めている。外部に委託するものについては、マニフェスト伝票での管理と委託処分場を調査した上で処理を行うことで汚染防止に取り組んでいる。			3.9		6.3				11.6	12.4		14.1	15.1						
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		本社事務所の照明を、LDE照明に替えてエネルギー使用量の削減に取り組んでいる。簡易計算シートにより、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。							7.3					13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		現場で使用する建設機械をハイブリッド車を導入し、CO2の削減に取り組んでいる。簡易計算シートにより、自社の温室効果ガスの排出量を把握し、その抑制に取り組んでいる。		2.4					7.2 7.3 7.a			12.4	13	14	15						
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		使用する建設機械を、低燃費、低騒音、低振動の基準対応型にし、環境に配慮している。					6.6								14	15					
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		事務所で使用する紙は再生紙として、裏紙も再利用している。									9.4		12.2 12.4 12.5		14.1	15					
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		公共財団法人くまもと地下水財団の正会員になっており、熊本の地下水を把握し、涵養する活動を続けている。		2.4			6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15			17		
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		事務所で使用する事務用品はグリーン購入品とし、かつリサイクル可能品としている。									9.4		12.4 12.5	13	14	15					
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●				1	2			6.4						12.3		14	15				17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		自社所有地に植樹を行い、緑の区間を構築している。											11.6 11.7		13.1 13.3		15				17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●		夜間に使用する工事規制カラーコーンや、バルーンライトの発光部分に太陽パネルを組み込んだものを利用するなどCO2の削減に取り組んでいる。							7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3						
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●		行政や民間組織が行う植林や枝打、野焼きなどに、積極的に参加することで次の世代への緑の橋渡しに取り組んでいる。					6				9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●		行政や民間組織が行う植林や枝打、野焼きなどに、積極的に参加することで次の世代への緑の橋渡しに取り組んでいる。					6.1 6.3 6.6						11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●													12.2 12.5		14						
35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●		現場事務所に行く場合には、可能な限りの乗り合わせて行くようにする事でCO2の削減に取り組んでいる。									9.4		11.2		13.1 13.3							
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●									7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13						17.2	

